

平成二十九年

金子鬼太のふるさと投句

第二回特選・入選作品

選者 榎本順江

根岸茉莉

石木戸雅江

特選

花浴びて出牛人形見得を切る

熊谷市

鈴木 信行

講評

出牛人形は皆野町金沢に伝わる三人遣いの人形浄瑠璃です。「見得を切る」という一瞬動きを止める所作は、役者が感情を誇示する場面です。その時、桜が舞い散ってきました。花ぶぶきと重なったのでしょうか。人形の静と花の動、一瞬を切り取った見事な一句です。

合歡の盆秩父音頭の渦にゐる

深谷市

保坂 嘉郷

講評

毎年八月十四日に皆野町で行われている秩父音頭まつりは、合歡の盆とも言われています。この句のポイントは何と言っても「渦にゐる」の五音です。この言葉によって踊る人も見る人も、ひとつになった祭全体の熱気が感じられます。櫓を囲む踊りの輪に加わった作者は、見ている時よりさらに大きな高揚感に包まれたのでしょうか。下五の「渦にゐる」が一句をしっかりと支え大きな景として成り立たせています。

長命水映る若葉を掬ひ飲む

秩父市

設楽 キマ

講評

三十四番札所水潜寺境内の巖より湧き出している清水は、古くより長命水と言われています。夏のはじめに結願を果たした作者は、冷たい長命水で渴いた喉をうるおしたのでしよう。掌に掬った時そこに若葉が映っていました。これから成長する若葉のエネルギーを頂いた作者の充実感が伝わる句です。

入選

大人の部

- 一山は芽吹の風や女坂
山形県 清野 佐知子 (十一歳)
- 犬ふぐり兜太生家の診察日
毛呂山町 高梨 孝 (八歳)
- 山峡の浮かれ囃子に合歡の咲き
群馬県 川端 一美 (八歳)
- 伊昔紅像下に夏草侍らせて
小鹿野町 木村 良子 (九歳)
- 高窓を青嶺へ開く飼家かな
さいたま市 増田 信雄 (十歳)
- 椽の花甲斐路へぬける関所跡
皆野町 新井 民子 (十歳)
- 姫沙羅の白の際立つ旧家かな
小鹿野町 原島 勝子 (十歳)
- 耕せば初蝶とまる土塊かな
皆野町 秋本 カズ子 (十歳)
- 五月雨や文字ありありと一揆の碑
小鹿野町 木村 良子 (十歳)
- 老鶯や福耳歌て伊昔紅
秩父市 前原 元一郎 (十歳)
- 町中を空っぽにして盆踊
深谷市 保坂 嘉郷 (十歳)
- 新緑を素肌にもとう露天風呂
東京都 吉村 尚美 (十歳)

小人の部

- SLがクオーとほえて雷雨くる
皆野小学校 太幡 琉美花 (十一歳)
- おばあちゃん八時にしゅうこう花火やろう
国神小学校 山下 小夏 (八歳)
- 露天風呂若葉とお湯がキラキラし
東京都 吉村 美穂 (十四歳)
- 荒川の流れる音とせみの声
三沢小学校 鈴木 奈海 (十歳)
- 雨ばかりアイスがちっともうまくない
国神小学校 中畦 智貴 (十一歳)
- とりたてに顔うつるかななすのつや
皆野小学校 関口 立花 (十一歳)
- 汽笛の音春がきたよとこだます
国神小学校 若林 皇牙 (十歳)
- つばめとお青いみの山青い空
皆野小学校 新井 愛斗 (十歳)
- あといちまい秋のおしまいもみじの葉
さいたま市 渡邊 芽 (十一歳)
- ぬるい風いっしょにシカがかけぬける
三沢小学校 大濱 歩南未 (九歳)
- 青空にうかぶじゆうたん赤いポピー
三沢小学校 島田 結菜 (十一歳)
- せみのこえぼくらをいやすがっしょうだん
皆野小学校 山口 遼人 (八歳)
- また来年いこと聞かやひぐらしを
皆野小学校 松本 桜 (九歳)
- おお花火ちちぶ音頭のかげ動く
国神小学校 山田 紗羅 (九歳)
- 行つてきます美の山朝日がてらすころ
皆野小学校 島田 理心 (十歳)

投句方法

役場・皆野駅など町内11か所に設置されている投句箱に、専用の投句用紙が用意してありますので必要事項をご記入ください。

次回選句会

平成29年第二回3月(9月)2月投句分 当季雑詠

問合せ

皆野町商工会 ☎62・1311